○子宮頸がん

※現在、この予防ワクチンの積極的勧奨は差し控えています。

現在、定期予防接種自体は中止ではありませんが、積極的勧奨を一時的に差し控えています。
平成25年6月14日付けの厚生労働省からの通知を踏まえ、ワクチン接種と副反応について適切な情報提供ができるようになるまで、ワクチン接種の積極的な勧奨は差し控えています。
ただし、予防接種自体を中止するものではありませんので、接種を希望する場合は、ワクチンの有効性と副反応のリスクなどを十分に理解したうえで、予防接種を受けることは可能です。

子宮頸がん

子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が原因で起こる病気です。子宮頸がん予防ワクチンは、日本人の子宮頸がん患者に多い HPV16型・18型の2つのウイルスに対応したもので、子宮頸がんの6割から7割を防ぐことができると考えられています。
ただし、感染した HPV を排除することはできませんし、その他発がん性 HPV の感染は予防できません。

接種時期・回数・スケジュール

対象年齢:12歳になる年度初日から16歳になる年度末日までの女子
（小学校6年生から高校1年生相当）

標準的接種年齢	ワクチンの種類	接種回数	接種スケジュール
13歳になる年度当初から末日（中学1年）	2価ワクチン	3回	1か月以上あけて2回接種。1回目から5か月以上かつ2回目から2か月半以上あけて1回接種。 ※標準的な接種間隔:1か月あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回
	4価ワクチン	3回	1か月以上あけて2回接種。2回目から3か月半以上あけて1回接種。 ※標準的な接種間隔:2か月あけて2回、1回目から6か月以上あけて1回

注意事項

ワクチン接種時の注意

接種をうけるときには、原則保護者の同伴が必要になります。接種を希望の方は、健康推進課に予診票がありますので、母子手帳を持参のうえお越しください。

ワクチンの効果、接種後の副反応や接種後の注意などをしっかりと理解したうえで、接種を受けてください。

※20歳以上の女性に対して子宮がん検診を実施しています。10代でワクチンを接種しても、20歳を過ぎたら定期的な子宮がん検診を受けましょう。